



JR四国労組新聞

JRSU

2023年
1月1日
No.7(523)

四国旅客鉄道労働組合
〒760-0021 高松市西の丸町11-9
TEL (NTT) 087-851-1378
(JR) 086-2597~2598
http://jrshu.jrsis.com/
発行責任者 / 大谷 清
編集責任者 / 石川 敏也



高松港から望む屋島と日の出

謹賀新年

年 頭 の ご 挨拶

明けましておめでと〜いございます。



四国旅客鉄道労働組合
執行委員長 大谷 清

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。あらためて、日頃の安全最優先の取り組みはもとより、JR四国労組運動にご理解とご参画を頂いておりますこと心から敬意を表し感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、長引くコロナ禍の収束が見通せないものの、ワクチン接種等の体制整備とともに、政府においてはこれまでの経験則を活かし行動制限を緩和するなど、ようやく少しずつですが日常を取り戻してきました。また、JR四国労組の活動も、マスク越しながらも対面で集まる機会が多くなり、明るい

新年おめでとうございます。



日本鉄道労働組合連合会
会長 荻山 市朗

組合員と家族の皆様には健やかに新年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。また、日々の業務へのご精励と組合活動へのご協力に対して心より敬意を表し、感謝を申し上げます。

昨年はJR連合結成30周年、鉄道開業150周年を迎えました。この大きな節目に続く2023年は、JR産業を本格的な回復軌道に載せるとともに、次なる30年の持続的な成長に向けたスタート台となる1年にしたいと考えます。まず、当面はウィズコロナの時代を覚

兆しが見えた年になりました。一方で、ウィズコロナの生活様式で定着した非接触・非対面、リモートワーク、オンライン会議・授業をはじめ変容した社会・経済活動への対応を余儀なくされ、私たちの働くJR四国グループの完全回復には時間を要するものと思いますが、『安全の取り組み』を第一義とした運動方針を実践し、明るい未来を見出す2023年にしましょう。

さて、昨年7月の大会において「私たちが考える『持続可能なJR四国グループをつくる人財確保』」とした『提言』を提起し、以降開催された支部大会や分會大会で広く展開してきたところです。この提言は、働く者の立場から中長期的な視点で「誇りを持ち安心して働き続けること、環境づくり」を進めるための道しるべとしなければなりません。賃金や手当、勤務制度だけでなく、課題が山積する各職場の現状や離職に至る問題を労使で共有し、『人財確保』の必要性、解決に資する方策を訴え、JR四国グループの繁栄と働く者の幸福度の両立をめざすものです。2月に開催予定の本部委員会で最終版を提起・承認された後、20

悟せざるを得ない中で、国に対し、感染防止と社会経済活動を両立して人の流れを支えるよう求めます。ルールを守れば、JRをはじめ公共交通による移動は安全だと確信します。2023年も「全国旅行支援」が当面は延長されますが、国や地方が息長く移動を促進するメッセージを発信することが不可欠です。

2点目に、JR連合が昨年10月に発信した「次なる30年の強くしなやかなJR産業を創る5提言」に示す通り、JR産業の持続的な成長のために、JR労使の自ら変革を推進するとともに、鉄道や公共交通に関する国の政策の転換を求め、その転換となる意義ある1年にしたいと考えます。JR産業は国鉄改革に並ぶ大転換期を迎えています。「JR北海道・四国・貨物の経営自立をはじめ、JR各社が民の力をさらに発揮できる環境づくり」「事業者任せでなく、地域モビリティを守るための官民パートナーシップの充実」「新幹線をはじめ鉄道の成長分野を磨く国の政策強化」などを訴えて政策の実現に取り組みます。

23春季生活闘争交渉をはじめ各種交渉や協議に活かして参ります。あわせて春闘交渉では、これまで以上に強く『人への投資』を訴えて参ります。コロナ禍の厳しい環境下にありますが、「エッセンシャルワーカー」あるいは「キーワーカー」と言われる私たちの労働条件が、その役割に相応しい水準になれば、私たちが担う社会的使命を果たし続けることが困難になると認識します。引き続き労働環境改善に向け取り組みを一層強化していきます。

私たちが働きを通して、JR四国グループが生み出す価値は、四国地域をはじめとする社会・経済にとって必要不可欠です。そこに働く『自信と誇り』を持ち、『安全の確立』を最大の使命として各職場で奮闘するとともに、JR四国労組組合員の団結力と実践力でこの苦境を克服し、さらなる飛躍に向けて邁進しましょう。

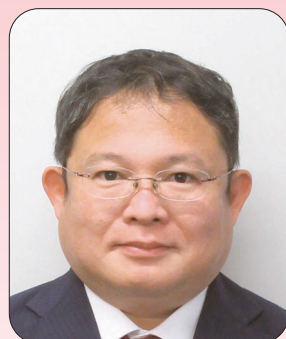
本年が皆様にとって健康で明るく充実した1年となりますことをお祈りするとともに、JR四国労組運動に対する一層のご理解ご協力をお願いし、新年のご挨拶といたします。

3点目に、JR産業の魅力が低下し、職場で将来不安が拡大している実態に危機感を持ち、JR産業の仲間が意欲高く働き続けられるよう、中長期的な視点から取り組みを強化することとします。とりわけ、若手や中堅の離職増は深刻な課題です。2023春季生活闘争では、労使で危機感を共有し、目先だけを見た交渉ではなく、あるべき賃金水準、労働条件、働き方などについて骨太の議論を深め、目標達成に向けてバックキャストの思考でのアプローチが求められます。JR連合のすべての単組がOne Teamとなつて取り組む決意です。

不安が広がる危機にこそ、責任ある労働組合と労使関係の役割が重要となります。あらためて、JR産業に働くすべての仲間のJR連合への総結集、そしてJR各社の結束の強化とJR連合との信頼関係の構築も訴えます。結びに、次代の展望を拓く明るい年とすべく、全力で取り組むJR連合の決意を申し上げます。新年のご挨拶といたします。

「団結創造実践 全組合員の団結力と実践力で苦境を克服し 誇りを持ち安心して働ける環境の実現を通じた明るい未来を創造しよう!」のスローガンのもと、組合員の皆様のためにJR四国労組運動に取り組んで参ります。本年も宜しくお願い申し上げます。

二〇二三年 元旦



副執行委員長
武智 義治



書記長
中村 鉄平



執行委員
中野 圭司



執行委員
石川 敏也



執行委員
杉本 慶太



執行委員
山本 鉄平



執行委員
井内 貴志



執行委員
河野 憲司



執行委員
寶田 晃



執行委員
上田 耕成



執行委員
安藤 正春



執行委員
島崎 隼途



執行委員
笹岡 慎平



執行委員
山本 真二



執行委員
和田 庄平



執行委員
河野 鎮朗



特別執行委員
森安 祐貴



特別執行委員
矢野 宏樹



特別執行委員
山本 愛莉



会計監査
大野 裕史



会計監査
三好 幸治



会計監査
岡本 茂



本部書記
木村 真由美



本部書記
板倉 みゆき

